

肥前石工の世界

戦国時代末期から江戸時代、小城市内には複数の石工集団が住み着いて活動していた。肥前石工発祥地とされる旧多久私領の砥川谷村（牛津町上砥川）、旧佐賀本藩領の西川村、旧小城藩領の右原村（ともに小城町池上）の3つの石工集団である。

彼らは、山間から石材を切り出し、石臼などの生活用品から鳥居・仏像・石塔など信仰の対象となる石造物の製作を手がけ、肥前地方特有の造形美を生み出した。中でも名工と伝わる平川与四右衛門（砥川石工）や平川徳兵衛（西川石工）は、質の高い彫刻技術を駆使した石仏を彫った。彼らが残した石造物や石工の道具を紹介しながら、近世から現代につながる小城市内の石工の系譜を紐解く。

また、小城藩士が記した石材買い付けのための旅日記など、文献資料に登場する石工関係の記録を紹介する。

令和2年10月24日(土)～12月13日(日)

休館日:毎週月曜日、11/4、11/24

小城市立歴史資料館常設展示室

